

関係するところざし読本の資料 「父の教え」



読み物資料等の内容

栄一が子供の頃、親戚のおじさんと江戸に出かけました。江戸の町に、桐で作られた本箱と、美しい模様のある硯が売られていました。栄一は、家に本箱も硯も持っていましたが、我慢できずに買って帰りました。お父さんは、それを見るなり、「ぜいたくはいけない。人間の欲はきりがない。」と厳しく栄一を諭しました。お父さんの言葉を栄一はどう理解したのでしょうか。皆さんだったら、欲しいものがあつたとき、どうしたらいいと思いますか。

授業の様子



児童の感想



栄一はほんばこやすずりをもってっているのに、どうしてかってしまったのだろう。よくかんがえればよかったね。

じぶんでもよくかんがえて、それでもまよったときには、いえの人にきくようにします。



おみせにいるときにはほしくてたまらなくなるので、みせにいくまえによくかんがえておくといいとおもいます。

まずは、じぶんでもっていないものをかうようにします。



授業を参観した教員の感想



授業のあいさつがしっかりできていました。また、読む時は、指を添えて言葉を理解しながら読み進めていました。自分の考えを積極的に発表していることもすばらしかったです。お父さんに叱られた栄一の気持ちをよく考えていました。大きくなると色々な物が欲しくなると思いますが、買いたい物をどう決めればいいのか、自分の考えをしっかり持っていることに感心しました。自制心を育てることや消費教育にもつながる授業となりました。